

自立活動だより No. 6

平成30年12月14日
大宮ろう学園 自立活動部

幼稚部自立活動の取り組み

幼稚部の園庭は自然環境が充実しています。子供たちは日々の遊びの中で、メダカやおたまじゃくし、カエル、ちょう、バッタなどを捕まえ観察しています。捕まえた虫は飼育ケースに入れ、遊びの時間は園庭に、それ以外の時間は幼稚部の廊下に自由に置いて観察していました。子供たちが生物に興味関心を持っている様子を見て、保護者や教員から種類の違うカエルや、ザリガニ、かぶとむしが提供されるようになり、廊下には様々な種類の虫が並ぶようになりました。そこでザリガニ、おたまじゃくしとカエル、ちょう、かぶとむし、バッタと虫の種類ごとにスペースをわけました。そしてイラストや図鑑などを設置し、イラストには成長の過程やエサの情報などを提示しました。また虫を観察するだけでなく、幼児が自由に虫の絵を描いたり、工作で虫を作ったりできるような製作の場を虫コーナーの隣に設置しました。

虫コーナーを設置することで、幼児の知的探求心を高めるとともに、生命の大切さ、生物の変化などを知る機会にもなりました。また、知的探求心が高まると誰かに伝えたいという気持ちが高まり、親と子や教員と幼児、幼児同士で豊かな会話が繰り広げられている様子を見ることができました。



かぶとむしの神輿



7月12日幼稚部では夏祭りが行われました。今年度の夏祭りのテーマは「虫」にしました。神輿をかぶとむしの形にし、年長児が作成しました。お店も虫とりや虫的当てなど虫に関連した内容にし、当日は廊下に展示してあった虫たちも夏祭りの会場へ移動しました。幼児は虫とりや虫的当てで自分の好きな虫を見つけて大喜びでゲームに参加したり、虫探しゲームに積極的に手を挙げて答えたりなど行事を楽しんでいる様子が多く見られました。

幼児の普段の生活で興味関心があることを、教員が捉え、それを行事に反映させることで、生活や遊びとつながった行事を設定することができました。

←ざりがにの的当て